

登録有形文化財「藤岡家住宅」七月～九月の展示

郷土玩具の本『うなぬ(い)の友』と

藤岡家所蔵のおもちらや

令和元年七月二日(火)～九月二十二日(日)





郷土玩具の本『うなゐ (い) の友』と 藤岡家所蔵のおもちゃ展



令和元年 7月2日 (火) ~ 9月22日 (日)
 会場：登録有形文化財「藤岡家住宅」 NPO 法人うちの館 (やかた)
 〒637-0016 奈良県五條市近内町 526 ☎と fax0747 (22) 4013
 9時~16時・月曜休館 (月曜が祝日のときは開館して翌日休館)
 高校生以上 300円・小中学生 200円・20名以上 2割引
 ご見学の他、お茶会、句会、会議、お食事会などにもご利用下さい。

『うなゐの友』とは、明治~大正時代の郷土玩具を描いた画集です。郷土玩具研究家、近世玩具研究家の清水晴風 (しみずせいふう) が発行しました。郷土玩具収集愛好の草分け的な書物です。うなゐとは、子供の髪型や童子を意味し、「子供の友であるおもちゃ」という意味が題名に込められています。晴風没後は、西澤笛畝 (にしざわてきほ) が発行を受け継ぎました。藤岡家は『うなゐの友』の第1編 (明治24年発行)、第2編、第3編、第4編 (明治44年発行)、第7編 (大正6年発行) の5冊を所蔵しています。郷土玩具の蒐集は、当時の文化人の好んだ趣味で、清水と同年代で内務官僚として全国に赴任した藤岡長和 (明治21年~昭和41年) も、数多くの郷土玩具を蒐集していました。そこには、子供のためのおもちゃという枠を超え、「おもちゃを愛でる」という視点が感じられます。今回は、郷土玩具に加え、藤岡長和が外国で蒐集したおもちゃと、西澤笛畝の著した『日本郷土玩具辞典』を同著と共に展示し、おもちゃの文化について考えます。どうぞお楽しみ下さい。

清水晴風は郷土玩具研究家。嘉永4年 (1851年) 江戸 (東京) の運送業の11代目として生まれる。俳諧、書画を学び、雅号は芳華堂晴風。各地の郷土玩具に興味を持ち、明治12年 (1879年) に仮名垣魯文・内田魯庵・坪井正五郎・大槻如電・巖谷小波・尾佐竹猛などと「竹馬の会」を結成。玩具研究・蒐集を本格的に始める。明治26年 (1893年) から玩具図録『うなゐの友』を6編まで刊行。明治29年 (1896年) から三村竹清・林若樹・奥村繁次郎らが主催していた「集古会」 (当時の文化人たちによって成立された骨董品、古書画の研究会) に参加し、世話人をつとめる。大正2年 (1913年) 蒐集物をすべて分配することを遺言し逝去。『うなゐの友』は彼の死後西澤笛畝 (てきほ) が引き継ぎ10編まで完成。近世玩具研究の貴重な文献とされている。

西澤笛畝は、日本画家。明治22年 (1889年) 東京に生まれる。大正から昭和にかけての人形玩具 (がんぐ) の収集、研究家として知られる。本名昂一。旧姓石川。東京・浅草生まれ。人形収集の大家で有名な実業家西沢仙湖の女婿 (じよせい) となる。荒木寛畝 (かんぼ) の塾に入り花鳥画を学んだが、人形絵で優れ、玩具画集の大冊『うなゐの友』 (清水晴風著) の続編を担当して完成させた。34年 (昭和9) 帝国美術展覧会 (後の日展) 審査員。59年紫綬 (しじゅ) 褒章受章。埼玉県越生 (おごせ) 町に笛畝人形記念美術館がある。昭和40年 (1965年) 没す。

